

はじめに—天動説か、それとも、地動説か—

みなさん、はじめまして。この講義を担当します高橋勉と申します。よろしくをお願いします。

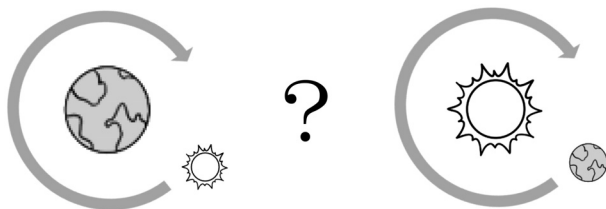
さて、私たち（さしあたり、日本で生まれて生活している人を前提にしています）が生活している経済の仕組みは、一言で言えば、“資本主義経済”です。私たちは、生まれてからいままですずっと資本主義経済の中で生活していますので、商品、貨幣、企業、賃金、利潤、利子などの存在を当たり前のものと思っていますよね。商品がお金を使って売り買いされる、人々が就職して給料をもらう、企業が人々を雇って生産を行い、利益を手に入れる、株の売買で儲ける、といった行動も不思議に感じることはないでしょう。

しかし、例えば、お金は単なる紙なのに、なぜ、店でお金を払うとジュース、服、カバンなど、あらゆる種類の商品を手に入れることができるのでしょうか？ そんなことを考えながら買い物をしている人はいないと思いますが、あらためて考えてみると、簡単には説明できないですね。また、なぜ、私たちは就職しなければならないのでしょうか？ もちろん、就職しなければ生活できないからなのですが、では、なぜ就職しなければ生活できない社会になっているのかと質問されると、やはりこれも説明するのは難しいのではないかと思います。

このようなことを考えてみると、私たちが当たり前のことだと思っている資本主義経済は、何か特別な仕組みによって成り立っているのではないかという気がしてきます。資本主義経済って、そもそもどのような仕組みで成り立っているのでしょうか？

そこで、この講義では、経済学を初めて学ぶみなさんを対象に、資本主義経済が成立する仕組みについてお話したいと思います。そして、この講義を通じて、みなさんが資本主義経済の本当の姿、難しく言い換えると、資本主義経済の本質を自分の考え方に基づいて理解する力を身に付けることに少しでもお役に立てればと思っています。

ところで、みなさんは天動説と地動説をご存知だと思いますが、どちらを信じていますか？ 当然、地動説ですよ。地球は自転しながら太陽の周りを公



転しています。

でも、みなさんの中で、地球が動いているように見える人はいますでしょうか？ 誰がどう見ても、太陽は東から登って西に沈むように見えます。では、それを見て、なぜ、みなさんは驚かないのでしょうか？ えっ、私の目には太陽が動いているように見える!!と。

おそらく、みなさんは無意識のうちに、これは目の錯覚であると脳の中で処理しているのでしょう。本当は自分たちが動いているのだから、太陽が動いているように見えるのは本当の姿ではなく、ウソなのだ、と。みなさんは本質＝地動説を知っているので、目に見える現象＝天動説を正しく理解することができます。

もしかしたら、経済も同じではないでしょうか。みなさんが経済について知っていること、見ていることは、太陽が動いているように見えるのと同じように、実はウソなのかもしれません。みなさんがこの講義で学ぶことによって、自分に見えていたことはウソだったんだ、本当はこうなっているんだ、というようなコペルニクスの(or ラファウ的)転回を経験することになれば、この講義は成功だったと言えるのだと思います。「今から、地球を動かす」(魚豊『チ。一地球の運動について一』第1集, 小学館, 2020年, p.88) ことになりますね。

実は、こうした資本主義経済の本質を解明しようとする経済学こそが、マルクス経済学に他なりません。この講義は、マルクス経済学の理論に基づいて資本主義経済の本質を考えていくことになりますので、その意味では、マルクス経済学自体を学ぶ入門講義であるとも言えるでしょう。社会主義経済が崩壊した1990年前後から、“社会主義経済の教科書”であると誤解されていたマルクス経済学の社会的な注目度は大きく低下することになりました。しかし、2008年のリーマンショックに端を発する世界同時不況の発生やその後の世界経済の長期停滞、また、深刻化する経済格差の状況から、資本主義経済の本質を問い直す機運が高まり、“資本主義経済を分析する教科書”という本来のマルクス

経済学の意義が再評価されるようになっていきます。マルクス経済学の創始者であるカール・マルクスの主著は言うまでもなく『資本論』であり、それはまさに「資本」主義経済の本質について「論」じられたものです。

前置きが長くなりました。それでは、講義を始めたいと思います。

僕もこの科目を受講しています。
カピ君と呼んでくださいね。一緒にマルクス経済学を勉強しましょう。よろしくお願いします。



カピタルスキー

